

ふくちやまCAP

2020年度 事業報告

(2020年4月1日～2021年3月31日)



目次

| | |
|--|----|
| ○ CAPのこと | 2 |
| 2020年度 総括..... | 3 |
| 今年度の概要..... | 3 |
| 今後の活動 | 4 |
| 2020年度の主な活動..... | 4 |
| 地域ワークショップおよび相談の場の創出 | 4 |
| <福知山市 川口公民館 人権研修> | 4 |
| <福知山市人権擁護委員 研修> | 5 |
| <「つながって安心な子育て」京都府・児童虐待防止地域推進事業> | 6 |
| <「オンライン・出張つながるーむ」こくみん共済 coop 地域貢献助成事業> | 7 |
| 子どもワークショップの実践..... | 8 |
| 就学前プログラムの実践 | 8 |
| 小学生プログラムの実践 | 11 |
| 子ども支援活動 | 12 |
| スタッフスキルアップ研修等..... | 14 |
| コロナ対策助成金活用 | 16 |
| 啓発活動..... | 17 |
| 組織概要..... | 18 |

○ CAPのこと

CAPとは、【Child Assault Prevention】=[子どもへの暴力防止]のことです。

CAPプログラムとは、子どもがいじめ・虐待・体罰・誘拐・痴漢・性暴力など様々な暴力から自分の心とからだを守る暴力防止のための予防教育プログラムのことをいいます。

◆CAPプログラムとは

CAPプログラムとは子どもがいじめ・虐待・体罰・誘拐・痴漢・性暴力など様々な暴力から自分の心とからだを守る暴力防止のための予防教育プログラムです。

そして、CAPプログラムは「子どもの大切な3つの権利(あんしん・じしん・じゆう)」をいじめ・虐待・性暴力などの暴力で脅かされることから子どもを守るために何が出来るのかを、保護者、地域のおとな、教職員、そして子ども自身に伝え、共に考える中で、子どもの人権意識を育て、子どもの”内なる力”を引き出す役目を持っています。

そのため、CAPプログラムでは

- ◆ 教職員ワークショップ
- ◆ 保護者(地域)ワークショップ
- ◆ 子どもワークショップ(就学前・小学生・中学生暴力防止・障害のある子どもたち・社会的養護のもとに暮らす子どものプログラムが用意されています)

の3つのワークショップで暴力防止にアプローチしていきます。これらのワークショップが地域・保護者・学校それぞれにおいて繰り返し実施されることで、よりCAPプログラムを活かすことが出来るのです。

2020年度 総括

私たちふくちやまCAPは、2003年より学校や園、施設などで子どもたちへのあらゆる暴力を防止するためのCAPプログラムのワークショップを行い、子どもたちが安心して暮らせる社会を目指して活動してまいりました。

2020年度は、一昨年より続くコロナウイルス感染拡大防止のための自粛により、対面で実施する活動は難しくなりました。子どもたちの権利意識に働きかける、CAPプログラムのような予防教育がこのような時こそ必要であるにもかかわらず、学校や園、施設などでの実施は困難になり、今までとは違う新しい方法を模索しながら生かしていく一年になりました。

今年度の概要

コロナ禍により、多くの方がストレスを感じている中で、そのストレスが力の弱い者（子どもや女性）に向けられることが多くなり、家庭内でのDVや児童虐待となって現れるようになりました。その点をふまえて、人権擁護委員や地域の方への研修では、子どもを取り巻く暴力の現状と、見えにくい被害にいち早く気づき、子どもの権利を尊重した支援ができる人が必要であることを伝えることに重点を置きました。社会の虐待・体罰・性加害等のニュースから「子どもへの暴力防止」に対する関心は高まり、家庭内や地域での関係性にも関連があると認識されつつありますが、CAPの啓発事業である講演の機会は、ことごとく中止あるいは延期という事態になりました。

一方で、「小学校に上がる前に、自分の大切さを知り、自分も友達も守る方法を知っておいて欲しい」という熱心な保護者のご要望によって、「子どもワークショップ」が実施できました。また、社会が不安を抱える状況だからこそ「子どもに必要なプログラム」であるという園の理解があり、子どもたちにCAPプログラムを届けることができ嬉しく思いました。（感謝します）

そして、withコロナという環境の中で、昨年に引き続き「オンラインつながる一む」を実施してきました。ZoomやLINEで、お互いの表情や様子を見ながら会話でつながり、仕事や子育ての合間の時間を利用してのメールやチャットも活用しています。中でも、保護者から要望のあった「アンガーマネジメント」の講座（3回）は、対面で少人数・換気・感染拡大防止対策をすることで安全に実施することができ、子育て・親育ちに一役かうことができました。このように、今年度においてはオンライン・対面のどちらかを自分の都合に合わせて選び、利用しやすい、相談しやすいものになるよう努めてきました。

今後の活動

コロナウィルスによるパンデミックは、ワクチンの供給と共に収まる気配も見せていますが、以前の生活に戻るのは、まだ難しい状態です。コロナ禍でのDV、自殺（特に女性と子ども）の増加傾向が止まらないという報告もあり、体罰禁止法が制定されてからも児童虐待は後を絶ちません。

このような状況の中、権利を取り上げられたままの人が、取り残されないように、誰もが「子どもの権利」「自分の権利」について知る機会を、CAPプログラムを実施することで広げていき、啓発事業・発信にも力を注ぎ、一番弱い立場に置かれている子どもに寄り添って、子どもの言葉を汲み取ることができる大人を増やしていきたいと考えています。

昨年度はコロナ禍でPTA活動も自粛されていたため、保護者ワークショップを実施することができませんでした。保護者が子どもの権利を知り、子どもの権利を意識した子育てに生かしていけるよう活動し、子どもの権利条約について、子ども、大人、誰もが知る機会を持てるように、啓発活動にも力を入れていきたいと考えています。オンラインやSNSの利用が必要となる状況の中、さらに有効な活用法を学び、支援や活動に生かしていきたいと思えます。

2020年度の主な活動

地域ワークショップおよび相談の場の創出

⇒地域で子育て中の親や保護者、地域の人にワークショップを体験してもらい、話し合う場を創出

<福知山市 川口公民館 人権研修>

日時：2020年10月31日（土）午後7時～9時

場所：川口公民館

参加人数：28人

(参加者からの感想・意見の集約)

- ・非常に分かりやすい講演で、子どもへの接し方について、改めて考えさせられました。
- ・自分を守り、他の人を大切にしたい気持ちを持たせる（気づかせる）ために、CAPを子どもの心に定着させることは大切だと思う。ワークショップ形式は、説明されるだけでなく、いい割合の話し合いや問いかけで実感でき、講演を聞くだけより有効だと思う。
- ・子どもの頃から、自分の存在意義や人権意識を知ること、考えることで大きく育った後も、人権に配慮することができるようになって感じた。“人権”で語る切り口が身近で具体的な工夫がされていてよかった。

・いじめや苦しい場面などについて、考える時に様々な例えを使って考えることでより身近なものにすることができた。わかっていると思っけていてもより深く見つめられた。被害者は、何も悪くない。

(振り返り)

「いじめは、ダメ」と言うが、いじめはなくなるのが現状。なぜダメなのか、どのように起こるのか、どのように防ぐことができるのかを伝えた。いじめは、いじめを受けている子どもだけの問題だと捉えられていた方がいたが、いじめは、いじめを受けている子ども（被害者）だけでなく、いじめをしている子ども（加害者）、いじめを見ている子ども（傍観者）、それぞれが問題を抱えていることを知ってもらい、いじめを防ぐために大人ができることを考えてもらった。

地域でCAPワークショップを受けていただいたことは、いじめや虐待のない、誰もが安心して暮らせる地域をつくる一歩になった。



地域の人権学習

< 福知山市人権擁護委員 研修 >

日時：2021年2月18日（木）午後1時～3時
場所：市民交流プラザふくちやま
参加人数：25人

(参加者からの感想・意見の集約)

- ・子どものSOSに、早く気づける社会を、大人が作っていくことが必要と思った。
- ・権利がいかにか大事か再認識できた。
- ・子どもが虐待から身を守るために役立つことを教えてもらえるプログラムだ。
- ・子どもが、困った時に、どうすればよいか考え方の道筋になる。
- ・話を聞くだけでは理解できなくても、劇に参加したりして考えることで理解できる。
- ・暴力だけでなく、人権教育が子どもの頃から行えるのは良いことだ。

(振り返り)

人権擁護委員の方々に、いじめや虐待で、どれだけの子どもの命が失われているか、統計を用いて、子どものおかれている現状を伝えた。交通事故を防ぐために交通安全教室を行なっているように、いじめや虐待等の子どもへの暴力を防ぐためにも防止教育・予防教育の必要性を感じてもらえた。また、子どもの権利を遵守する立場の方に、子どもの視点に立ち、子どもの SOS に気づく等、今後の活動に役立てていただければと思う。



福知山人権擁護委員に向けた研修

< 「つながって安心な子育て」 京都府・児童虐待防止地域推進事業 >

～わたしも 子どもも ハッピーになる保護者ワークショップ～

活動内容： CAP プログラムを構成するアプローチの一つである「保護者ワークショップ」を行い、しつけなど子育ての悩みや虐待などについて話し合うことで、子どもが暴力から心とからだを守る暴力防止につなげる

予算：150,000 円

日時：2021年1月22日・28日・2月5日・3月5日（計4回）（いずれも 午前10時～12時）

場所：堀会館

参加人数：延べ20人

(参加者からの感想・意見の集約)

- ・人権意識・肯定感を育てるための言葉がけとか、勉強になった。
- ・権利が侵害された時の対処法を具体的に考え、今後役に立てることができる。
- ・子どもだけの「安心・自信・自由」を守るのではなく、自分自身の「安心・自信・自由」も大事だと思ったが、日々必死に過ごしているとすぐ忘れてしまう。そしてキャパオーバーで言うことをきかない子どもにきつくあたり、どうしたらいいかわからず、病んでいる自分がいる。ぜひ繰り返し講座を受けたい。



チラシ

CAP ワークショップの様子

(振り返り)

保護者が子どもの権利を学ぶ中で、自分自身の権利（安心して自信を持って、自由に自分のやりたいことを選べる）が保障されていないことに気づき、自分も子どもも権利が尊重され、人として大切にされることが大事であることを実感してもらうことができた。また、今回は子ども自身にCAPプログラムを知っておいて欲しいという保護者の熱い思いから、「つながって安心な子育て」の参加者の子どもたちにCAPワークショップを実施した。

<「オンライン・出張つながる一む」こくみん共済 coop 地域貢献助成事業>

活動内容：虐待や暴力のない、子どもの権利が大切に守られる社会を作ることが目的とし、育児の悩みやストレスを話し合ってもらえる場を設けていたが、コロナ禍のため集まるのが難しく、オンラインでの開催や「出張つながる一む」として子育て中の家庭又はその近くまで出向いて子育て相談に応じて実施している。

予算：300,000円

期間・2019年12月～2021年11月

日時：随時

(振り返り)

福知山市・子育て政策室より紹介いただいた方への個別「出張つながる一む」を実施した。子育てでイライラするときの対処方法をCAPのキーワードを用いて、気持ち・感情が意味することを知ることか

ら始めた。回を重ね、今後も繋がりを維持し、子どもの権利が守られるような取り組みを続けていきたい。



子どもワークショップの実践

就学前プログラムの実践

1. 舞鶴中保育所（舞鶴市）

◆子ども向けワークショップ（こくみん共済coop 地域貢献助成事業）

日時：11月18日(水)・19日(木)・20日(金)

参加者：年長2クラス

（就学前子どもワークショップに参加した先生の感想）

・小学校に上がって、行動範囲が広がってくるので、自分の身を守るためにどうしたらよいか、具体的に知ることができる良い機会になった。

- ・子どもの頃から、自分達にも色々な権利があることを知っておくことは大切だと感じた。ひとり一人の意見を肯定的に受け止めてもらうことで、子どもたちにとって楽しい学びの時間になっていた。
- ・三日間のなかで、子どもたちが一日目・二日目の内容を覚えていることにびっくりした。劇を用いて、困ったときにはどうしたらいいのか身近に感じる事ができた。

(振り返り)

子どもたちは、運動会も終わって仲間意識が高まってきた時期の実施で、ワークショップに集中し、3日間にわたって実施したが、毎回覚えたことを言葉にして、楽しく学んでいた。

また、ワークショップ後、先生の一人ひとりの子どもに合わせた細やかなフォローは、子どもたちが、繰り返しの中で学んだことを自分のものにし、今後の生きる力になることを感じた。今後の保育の中でも常に取り入れていただきたいと思う。

コロナ禍のマスク着用で声が届きにくく表情が伝わりにくいため、オーバーリアクションで、床に座り子どもたちと視線を合わせるように話すなど工夫しながら進めた。



CAPワークショップの様子 (写真提供：舞鶴中保育所)

2. ゆうかり子ども園 (京丹後市)

◆子ども向けワークショップ

(特定非営利活動法人 新潟NPO協会「子どもの安心・自信・自由を守る基金事業」)

日時：2021年1月13日(水)・14日(木)・15日(金)

参加者：年長2クラス

(就学前子どもワークショップに参加した先生の感想)

・分かりやすい説明で、子どもたちは話をよく聞き、ワークショップに積極的に参加していたと思います。理解度に個人差があるのは当然の事なので、繰り返し伝えていきたいと思う。

- ・イヤと言う前に、手が出てしまう子もいるが、「イヤ」と感じた時には「いや」と言ってもいい、おとなに相談していいことが伝わってきた。
- ・劇に参加して、子どもだけでも対処していける力があることを感じた。

（振り返り）

・就学を目前に控え、期待に胸を膨らませつつも、不安も感じ始める時期にCAPワークショップが実施できました。集団の中で自分の権利や、友達の権利を大切にすることを体験学習になりました。児童養護施設から通う子どもたちも、今施設にいることを自分なりに受け止めていることがわかった。施設でワークショップを実施する場合、少人数となり多く発言することができるが、いつも一緒にいる仲間の中だからこそ、安心して自分の気持ちや状況を話すことができたと感じた。

嫌なことをされたときには「いや」と伝えてよいこと、大人に相談してよいこと、大切な身体を守るためにできることなど、劇にも参加し一緒に考えた。今後、子どもたちの身近に、相談できるおとなを1人でも多く増やすため、保護者向けワークショップにも取り組んでもらえるように進めていきたい。また、就学先の小学校でもCAPワークショップに取り組んでいただけるよう、PTA組織や学校・地域への啓発活動を根気よく続けていきたい。



3. 地域子どもワークショップ（福知山市）

◆子どもワークショップ（こくみん共済 coop 地域貢献助成事業）

日時：2021年3月30日（火）31日（水）

参加人数：7人

「つながって安心な子育て」の講座に参加してくださった保護者の子どもさんたちを対象に子ども向けワークショップを実施した。

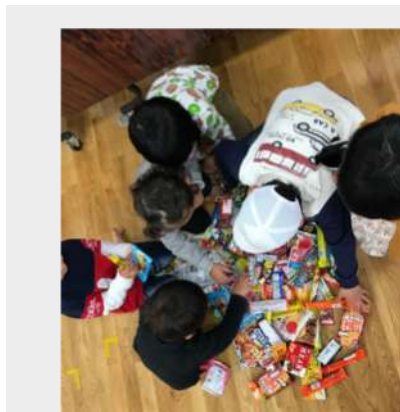
◎子どもへのワークショップの必要性について（保護者からの意見）

・これから小学校に上がり、たくさんのお友達と生活していくことになる。自分の権利も、友達の権利も大事にして、困ったことも相談していいということを知って小学校にあがるのは、子どもにとって大切な学びになる。

（振り返り）

「CAPプログラムを我が子に受けさせたい。」そんな親の願いのもと、子どもたちが集まった。慣れない場所で最初は緊張していたが、ワークショップを進めるうちに安心し、劇に参加したり、自分の気持ちや意見を堂々と伝えCAPワークショップを楽しんだ。

その後の子どもたちの様子を、「家でも、姉妹二人で、ずっと安心自信自由のポーズをやっているんですよ！」とお母さんから伺った。このまま大切な権利を、繰り返し自分のものにし、当たり前を持っていてほしいと願う。



♥ワークショップの後は、おやつタイム。
「自分の好きなおやつを5つ選んだよ」

♥たくさんのおやつの中から、自分で選ぶ。
こんなことが、人生の分岐点に立った時、
どうするかを自分で選択していく練習になるんだよ。

小学生プログラムの実践

1. 吉津小学校（宮津市）

◆子ども向けワークショップ（京都府いのちとこころのコミュニケーション事業）

※コロナウイルス感染拡大防止・緊急事態宣言のため中止

日時：2月8日(月)

参加者：5・6年生

(振り返り)

コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったが、学校との打ち合わせ時に、CAPプログラムが子どもたちにとっても保護者の方にとっても必要なものであると捉えられていた。保護者ワークショップの実施は難しかったが、当初予定していた子ども向けワークショップまでも緊急事態宣言のため実施できず、担当教諭の方は、非常に残念な気持ちでいらっしやう。ぜひまた、機会を得て実施に結び付けたいが、いまこそ必要！という時期に、要請に応えることができず心残りであった。コロナ禍でのタイミングで失われた「自分の命も友だちの命も大事にする学び」を取り戻す機会も必要と感じた。

子ども支援活動

【臨時休校中の子どもと家族を支える見守りプロジェクト】活動に参加

日時：5月～

主催：社会福祉法人 福知山市社会福祉協議会

活動内容：これまでのCAPワークショップに参加して繋がっている保護者に届け、そこから繋がる支援を必要としている家庭に食品を届けた。



【たんたんフードバンク事業】活動に参加

日時：12月～

主催：NPO 法人京都丹波・丹後ネットワーク

活動内容：お米・食料品をひとり親家庭や若年の生活困窮者に配布。



子どもたちへ笑顔を届ける



子だくさんのお家へ

【ふくちやまCAP：子どもホッコリおやつタイムシェアー】

日時：2021年1月～

活動内容：CAPワークショップ参加から繋がった「NPO法人 みらい学園」さんから、いただいた、沢山のおやつを子どもたちに配布。



いろんなお菓子が揃っている



おやつと一緒に、子どもの権利パンフレットも配布



どれにしようかな？

(振り返り)

おやつを選ぶ時の子どもの笑顔に、ほっこりする時間が持て、その間に親とは「最近どう〜？」と世間話。おやつを寄付してくれる「ダラム」さん、「NPO 法人 みらい学園」さん、ありがとうございます。つながりを実感して心がほぐれる時間をもつことができます。子どもが沢山のおやつの中から自分で選ぶ。おやつだけでなく、これからいろんなものを自分で選んで生きていって欲しいな。なんて願いを込めてこの活動を続ける。

スタッフスキルアップ研修等

【中学生向けいじめ防止プログラム学習会】オンライン学習会

日時：7月18日（土）

主催：SURVIVAL13 実行委員会

【ZOOM 体験学習会：たんたんパソコン教室】

講師：森田洋行さん

日時：9月11日（金）

場所：たんたんスペース

主催：NPO 法人京都丹波・丹後ネットワーク

【男女共同参画と SDG s】（オンラインフォーラム）

講師：大崎 麻子さん（国際連合開発計画 UNDP）

◇SDGsの目的の1つでありメインの課題であるジェンダー平等と女性のエンパワメントについて

日時：9月26日（土）

【ジェンダーギャップ：豊岡市の挑戦】

講師：中貝宗治さん（豊岡市長）

日時：12月5日（土）

場所：ハピネスふくちやまホール

主催：福知山市人権推進室（男女共同参画センター）

【はばたきネットワーク学習会：選択的夫婦別姓入門】

講師：野口 由紀さん（毎日新聞大阪本社科学環境部兼社会部 記者）

日時：12月11日（金）

場所：ハピネスふくちやま

主催：はばたきネットワーク

【ファシリテーター養成セミナー：人権へアプローチ「知らない他者」を知ろうとする】

講師：渡辺 毅さん（穀雨企画室）

日時：12月17日（木）

場所：ハピネス福知山

主催：福知山市地域振興部 人権推進室

【いじめ防止講演会：ネットトラブルについて】

講師：篠原嘉一さん

日時：12月22日（火）

場所：ハピネス福知山市民ホール

主催：STAR（差別を許さない子ども育成協議会）

【「ひきこもりへの理解について」：ネットワーク会議】

講師：町田弘樹さん（NPO 法人ニュートラル）

日時：1月20日（水）

場所：福知山市民交流プラザ

主催：NPO法人 ニュートラル

【with コロナ生活で考える：「子どもが自分を守る力」】

講師：NPO 法人 CAP センター・JAPAN、あおぞら CAP 京都

日時：2月13日（土）

場所：ウィングス京都

主催：あおぞらCAP京都

共催：公益財団法人京都市男女共同参画推進協会

【関西 CAP 連絡協議会】（オンライン）

日時：2月21日（日）

内容：コロナ禍におけるCAPワークショップの在り方について

【障害について学ぶ】

講師：森 靖弘さん（福知山聴覚障害者協会）

通訳：菅井 奈津子さん（福知山聴覚言語障害センター）

日時：2月28日（日）

場所：ハピネスふくちやま女性活動支援ルーム

主催：STAR（差別を許さない子ども育成協議会）

【子どもの権利条約日本批准から今と、SDGs 講演会】 オンライン

講師：平野裕二（子どもの人権連代表委員）

日時：3月6日（土）

主催：関西CAP交流会（担当：NPO法人えんばわめんと堺/ES）

コロナ対策助成金活用

◆福知山市社会福祉協議会 新型コロナウイルス対策緊急支援

「ふくちやま・こども等支援団体応援事業」助成



アルコール消毒薬・体温計・マスク・フェイスシールド購入

（振り返り）

助成金によりアルコール消毒用品や体温計等が用意でき、ふくちやまCAP主催のCAPワークショップに安心して参加してもらうことができた。また、CAPのメンバーが、学校や保育所に出向く

時、体温を測りマスクや携帯用のアルコール消毒液を用意することで、ワークショップ実施先に安心して受け入れていただけた。



手の消毒

熱も測って

啓発活動

◆赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン

with コロナ草の根応援助成

活動内容：コロナ禍においてテレワークの増加やコロナウイルスに対する不安感からDV等の家庭内暴力や子どもへの虐待が増えており、肉体的にも心理的にも子どもが傷つき、子どもの権利が脅かされていることを懸念し、子どもたちにわかりやすい言葉とイラストを用い、子どもの権利条約や暴力から自分を守る方法、困った時の相談先等を書いた「子どもの権利条約パンフレット」を配布した。また、子育ての悩みや不安を傾聴し、子どもへの暴力防止と親の孤立を防ぐために、保護者の方へ「子育て・子育て相談案内カード」を配布した。

配布先：図書館・児童館・学校・ワークショップ参加者・支援物資配布時など。



子どもたちへ「子どもの権利条約のパンフレット」

保護者の方へ「子育て・子育て相談案内カード」

【福知山市議会便り：インタビュー】

2020年9月号「福知山市議会便り」の「元気やで福知山」というコーナーに、「ふくちやまCAP」を取り上げてもらった。市会議員からのインタビュー形式のもので、団体名の由来から、いじめや虐待等子どもへの暴力を防止し、子どもの人権が大切にされるまちを目指して活動をしていることを答え、子どもの安心は保護者の安心にも関係しており、親を孤立させない「つながる一む」（親子サロン）も紹介させてもらった。



組織概要

2003年より「特定非営利活動法人CAPセンターJAPAN」に登録

メンバー 9人（代表：足立淳子・副代表：山口陽子）

それぞれの思いを持った年齢・性別も違う者たちが様々な分野から集まり、子どもたちへの暴力のない社会づくりのために活動している。

ホームページ：

<http://www.fukuchiyama-cap.com>

ホームページQRコード

